

## 1.2 キャリア段位制度の必要性・重要性

### 本制度のねらい

食の6次産業化プロデューサー（以下食Pro.）の育成を目的としたキャリア段位制度は、1次産業から2次・3次産業をつなぐ6次産業化の流れの中で、最終製品を高付加価値化するとともに、付加価値を適正に配分し、新たな消費者を見つけることができる人材を育成し、同時に、他産業から食農分野に優秀な人材を呼び込むことをねらいとした施策です。

### 肩書きではなく、「キャリア」や「能力」がより評価される社会を目指して

実践キャリア・アップ戦略は、新成長戦略（平成22年6月18日閣議決定）において、国家戦略プロジェクトの1つとして位置付けられました。また、日本再興戦略（平成25年6月14日閣議決定）においても、個人が円滑に転職等を行い、能力を発揮し、経済成長の担い手として活躍できるよう、能力開発支援を含めた労働移動支援型の政策に大胆に転換していく旨が明記されています。

このような考え方に沿って、実践的な職業能力の評価・認定制度（キャリア段位制度）を構築するとともに、それにもとづく育成プログラムの整備や労働移動の円滑な仕組みづくり推進するため、実践キャリア・アップ戦略として政府において横断的に施策を実施しています。

具体的には、キャリア段位制度の実施により成長分野への労働移動を図り、当該分野における専門的人材を育成することを目的とした取り組みとして、「食Pro.」「カーボンマネジャー」および「介護プロフェッショナル」の3分野において制度設計を行い、平成25年3月から個人へのレベル認定が開始しています。

キャリア段位制度の仕組みは、エントリーレベルからその分野を代表するトップ・プロフェッショナルレベルまで、各分野統一で7段階のレベル（レベル段位）が設定されました。段位制度は、これら各レベルに応じて実践的な職業能力に重点を置き「わかる（知識）」と「できる（実践的スキル）」を評価し人材の認定を行うものです。

このうち食Pro.では、「農」や「食」を基盤とした新たなビジネスの創出を目的とする人材の育成プログラムを認証し、「能力」ある人材を作り・育ててゆく社会システムの構築を目指すとともに、「能力」や「実績」を有する人材をプロフェッショナルとして認定するキャリア段位制度のシステム化を進めています。

平成27年度からは3分野それぞれが独立し、制度の向上や発展に取り組んでいます。食Pro.では、レベル段位を6段階に改め、継続して人材の育成・認定を行っています。



食の6次産業化を目指す人材のキャリア段位制度～レベル段位のイメージ～

### 「食Pro.」とは

現在、我が国の「農」や「食」および「地域」を取り巻く課題を解決する方法の1つとして、「食」の付加価値向上に寄与することができる人材や「農」の生産性向上を目的に強固な「経営力」を構築することができる人材など、いわゆる「人」の育成が急務となっています。

このような背景のもとに、食Pro. では、生産（1次産業）、加工（2次産業）、流通・販売・サービス（3次産業）の一体化や連携により、地域の農林水産物を利活用した加工品の開発、消費者への直接販売、レストランの展開など、食分野で新たなビジネスを創出できる人材の創出を目指しています。

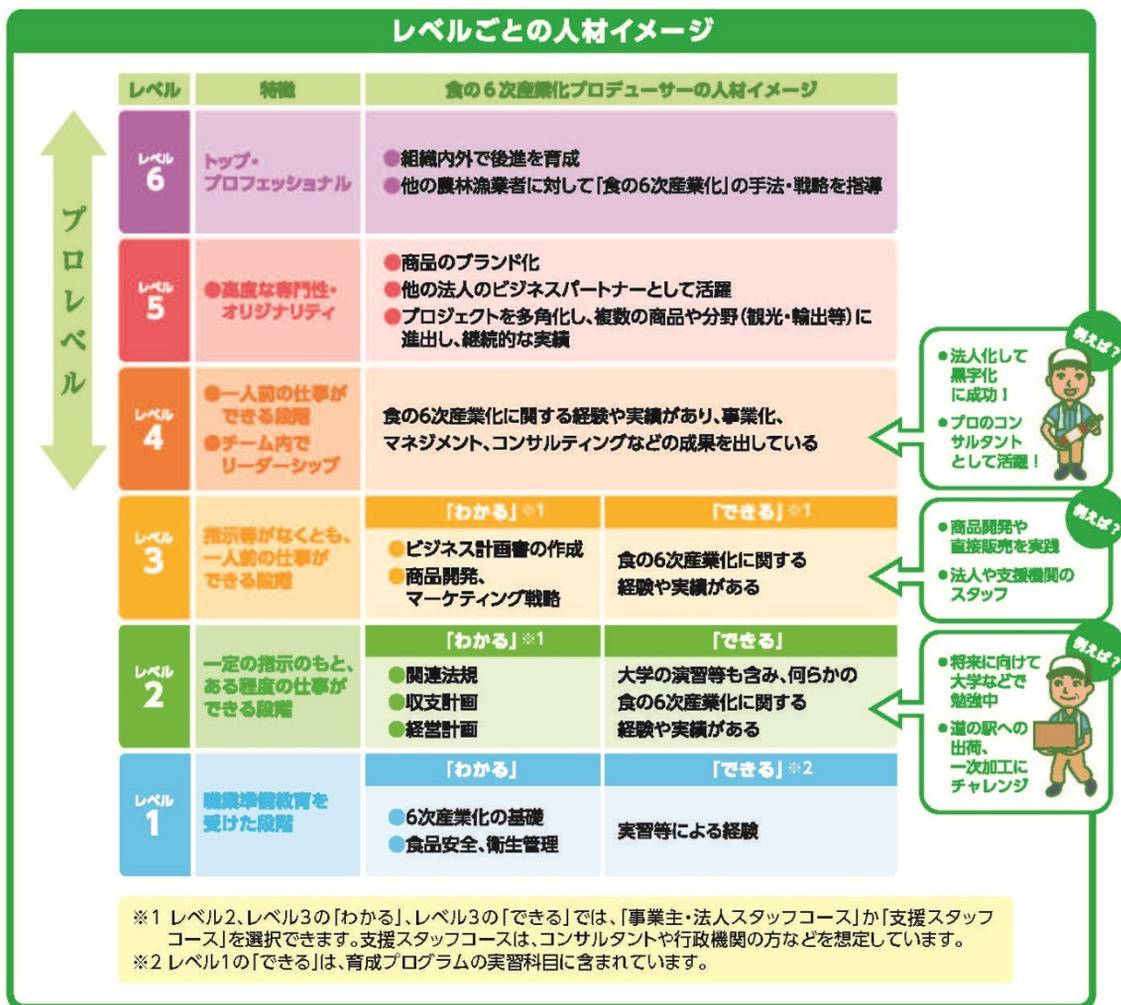
特に上記のビジネス創出において要求される人材は、「農水産物を高付加価値化する事業の企画に携わり、市場開拓を先導するとともに、参画する主体間の利害関係

を調整し、適正な付加価値配分を行うことができ、異業種横断でプロジェクトを組成・管理し、実績を上げることができる人材」です。

### レベル段位ごとの人材のイメージ

このような人材を評価・認定するため、食Pro. では、各レベル段位ごとに、原則として「わかる（知識）」および「できる（実践的スキル）」の両面による評価を行うこととしています。

「農」や「食」を基盤とした新たなビジネスを創出する人材像としてレベル4を基準とし、それに至るレベル1～3では、食Pro. レベル4を目指すために、「わかる（知識）」と「できる（実践的スキル）」を習得するためのステップとしています。



「わかる（知識）」および「できる（実践的スキル）」の両面による評価

食Pro. では、各レベルに応じて設定されている「わかる（知識）」と「できる（実践的スキル）」の2つの側面から評価を行うシステムを構成しています。

「わかる（知識）」は、レベル1～3までを対象とし、原則として認証された「育成プログラム」の履修により評価を行います。一方、「できる（実践的スキル）」は、レベル2以上を対象とし、人材の能力や経験、実績をもとに評価を行います。

下記の表にあるように、レベル1は「わかる（知識）」のみで「レベル認定」（「キャリア段位を取得する」の意味：以下同）となりますが、レベル2～3では、「わかる（知識）」と「できる（実践的スキル）」の双方について「レベル評価判定」を受け、合格しないとレベル認定にはなりません。これに対し、レベル4、5は「できる（実践的スキル）」のみでレベルの評価判定を行い、合格した場合にはレベル認定となります。

各レベルの解説

●レベル1

〔エントリーレベル（職業準備教育を受けた段階）〕  
育成プログラムで、「6次産業化論」「農産物と水産物」「食品加工・衛生管理」「食品流通」「経営及び経営分析の基礎」等の講義や実習を受け修了した方が、食Pro. レベル1の認定となります。

●レベル2

〔一定の指示のもと、ある程度の仕事ができる段階〕  
「わかる（知識）」は、育成プログラムで、「6次産業化関連法規・事例分析」「農産物と水産物（関連法規・技術）」「食品加工・衛生管理（法規・応用）」「マーケティング」「財務・事業計画」の講義や実習を受け、修了した方が「わかる（知識）」のレベル評価判定を受けることができます。実際には認証された育成プログラムの修了後、個人の登録申請を行うことで「わかる（知識）」のレベル2を取得することになります。

食の6次産業化プロデューサー レベルごとの審査基準

レベル		レベルごとの審査基準	
6	トップ・プロフェSSIONナル	<ul style="list-style-type: none"> <li>●組織内外で後進を育成</li> <li>●他の農林漁業者に対して「食の6次産業化」の手法・戦略を指導</li> </ul> ※評価判定方法は検討中です。	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な専門性</li> <li>・オリジナリティ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●商品のブランド化</li> <li>●他の法人のビジネスパートナーとして活躍</li> <li>●プロジェクトを多角化し、複数の商品や分野（観光・輸出等）に進出し、継続的な実績</li> </ul> ※「面接試験」（能力と実績が対象）	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人前の仕事ができる段階</li> <li>・チーム内でリーダーシップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●食の6次産業化に関する経験や実績など、食産業に関連した分野で事業化、マネジメント、コンサルティングなどの成果を出しているレベル</li> </ul> ※「面接試験」（能力と実績が対象）	
3	指示等がなくとも、一人前の仕事ができる	「できる（実践的スキル）」	「わかる（知識）」 ※育成プログラムの履修
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●食の6次産業化に関する経験や実績があるレベル</li> </ul> 「書類審査」（実務等が対象） ※自身の業務経験や実績をもとに審査	<ul style="list-style-type: none"> <li>●専門プログラムレベル</li> </ul> 「経営戦略」「経営管理」「商品開発」「マーケティング」等の講義や実習
2	一定の指示のもと、ある程度の仕事ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大学の演習等も含み、何らかの食の6次産業化に関する経験や実績があるレベル</li> </ul> 「書類審査」（演習等が対象） ※レベル2の育成プログラム履修により得た能力や経験をもとに審査	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大学農学部／農業大学校等のシラバスレベル</li> </ul> 「6次産業化関連法規・事例分析」「農産物と水産物（関連法規・技術）」「食品加工・衛生管理（法規・応用）」「マーケティング」「財務・事業計画」等の講義や実習
		職業準備教育を受けた段階	(対象外)

「できる（実践的スキル）」は、大学の演習等も含み、何らかの食の6次産業化に関する経験や実績があり、その経験にもとづいて自らのスキルを書面にて申請していただき、「できる（実践的スキル）」のレベル評価判定（書類審査）を受け、合格した方は「できる（実践的スキル）」のレベル2を取得することになります。

「わかる（知識）」と「できる（実践的スキル）」の2つのレベル評価判定の結果により、「わかる（知識）」「できる（実践的スキル）」の双方が取得できている場合には、食Pro. レベル2の認定となります。

### ●レベル3

[指示などがなくとも一人前の仕事ができる段階]

「わかる（知識）」は、育成プログラムで、「経営戦略」「経営管理」「商品開発」「マーケティング」等の講義や実習を受け、修了した方が「わかる（知識）」のレベル評価判定を受けることができます。実際には認証された育成プログラムの修了後、個人の登録申請を行うことで、「わかる（知識）」のレベル3を取得することになります。

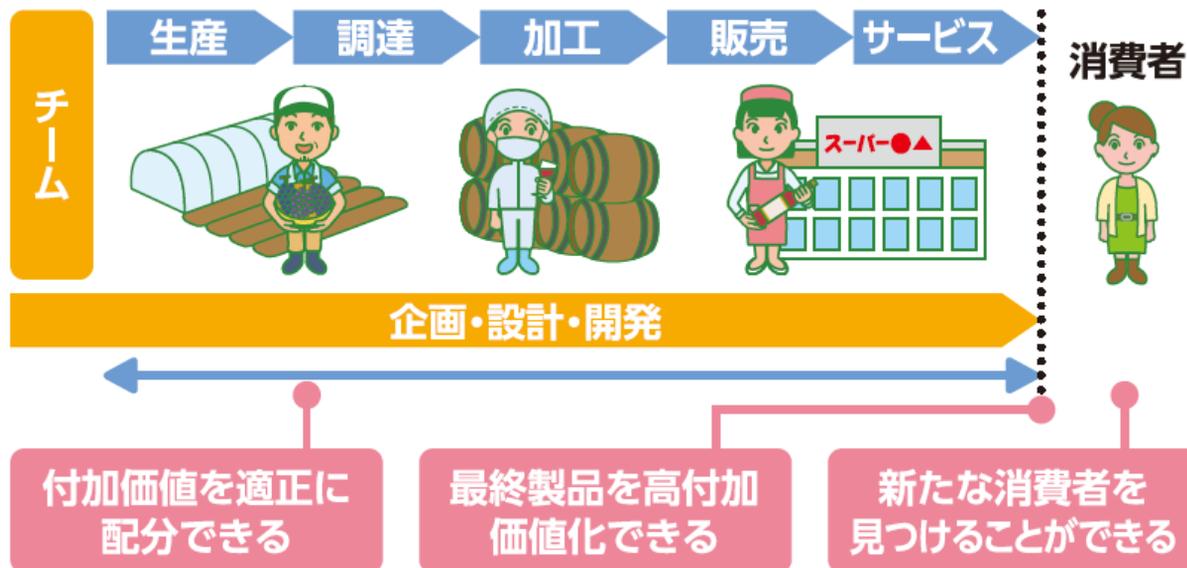
「できる（実践的スキル）」は、食の6次産業化に関する業務経験や実績があり、その経験にもとづいて自らのスキルを書面にて申請していただき、「できる（実践的スキル）」のレベル評価判定（書類審査）を受け、合格した方は「できる（実践的スキル）」のレベル3を取得することになります。

「わかる（知識）」と「できる（実践的スキル）」の2つのレベル評価判定の結果により、「わかる（知識）」「できる（実践的スキル）」の双方が取得できている場合には、食Pro. レベル3の認定となります。

### ●レベル4以上

[プロからトップ・プロの段階]

「できる（実践的スキル）」は、食の6次産業化に関する経験や実績があり、その経験にもとづいて自らのスキルを申請していただき、レベル評価判定（面接試験）を受け、合格した方は食Pro.（レベル4以上）の認定となります。なお、トップ・プロであるレベル6の評価判定方法は現在検討中です。



食の6次産業化プロデューサーに求められる人材像

